

正・五・九月御祈禱料
 一、米十一石五斗 同 波着寺
 右同斷
 一、五十石 同 永久寺
 一、米五石 同 明王院
 一、百一十一石五斗八升八合 俱利伽羅 長樂寺
 外五石七斗代銀百八十四匁六分 山手米と稱す。
 一、三十石 金澤 獻珠寺
 右獻珠寺は、横山外記母海光院方より微妙院様へ申上、
 屋敷被下、慶安四年寺建立、海光院知行之内三十石被仰
 付候。夫に付住持替之時分、達御聽被仰付候。
 一、百俵之地 越中舟見村 法福寺
 一、六石七斗九升二合 同氷見庵 養老寺
 一、八石一斗 同斷 國泰寺
 一、五十石 同今石動 永傳寺
 一、六石八斗 同氷見 光禪寺
 一、十二石五斗 同高岡 稻荷神主
 一、二百石 同國府 勝興寺

一、二十石 能州酒井 永光寺
 一、三十俵之地 同太田 海門寺
 一、二十俵之地 同鶴飼 金峰寺
 一、十五石七斗五升 同所口 靈泉寺
 一、十四石五斗 同輪島 蓮江寺
 一、十俵之地 同道下 寶泉寺
 一、十二石五斗 同徳田 安養寺
 一、八石六斗四升 同松波 松岡寺
 一、二十五俵之地 同鶴飼 妙嚴寺
 一、二十俵之地 同七尾 所口神主
 以上

加賀藩御定書卷十

御算用場御定書

一 惣御條目

一、算用有之刻者、毎日朝五つより相詰、晚は八つ過可罷
 歸候。算用無之刻者出申間敷事。
 一、諸代官算用仕刻、在々高物成、御印帳に引合可遂勘定
 事。

朱書。御算用場印帳に引合勘定仕候。

一、見立檢地乞申在々有之候者、致相談、早速可指遣。左
 候者、引高引免見立、檢地奉行證文を取、算用場より極高
 物成代官の書付可遣事。

一、升廻欠米指引致相談、對馬・因幡・支蕃・民部に申聞可
 相極事。

朱書。升廻奉行改帳に引合吟味仕候。

一、納所米其外上り金銀、定之月を越候者、一步七之加利

足可取立。但、斷之品尤之儀者各別之事。附、春秋夫銀如
 跡々百姓勝手次第可爲上事。

一、上り知分、越中者笹嶋豊前、石川・河北・能美郡は木村
 甚左衛門、羽咋・鹿嶋郡は相神村彌六・熊木村太左衛門、奥
 郡は手寄之代官申付、可爲致收納事。

朱書。上り知は加州・越中・能州共、其所之十村代官に申
 渡候。

一、御扶持方・切米取、御知行被下候者、早速下行所可申
 遣事。

一、御墨付極月晦日迄之御日限に者、藏返可被下、正月朔
 日より者遣間敷事。

朱書。只今は年寄中より之紙面を以相渡申候。

一、御藏返被下候者は、翌年春夫銀より可收納。附、死去
 人春夫銀請取、六月晦日以前果候者、可爲其分事。

朱書。御藏返米被下者、其年之秋夫銀は御納戸銀を以相
 渡申候。

一、御藏返米八升口米之内二升御代官被下、殘六升者給
 人に被下候事。